

## 令和4年度 第2回 若者支援事業運営協議会（レジュメ）

### 1 ねらい

- 前回論点と示された事項についてご意見をいただく。
- 「集中改革」に伴い、改善すべき事項を洗い出し、方向性を整理する。
- オールの課題について、ご意見をいただく。

### 2 日時

令和5年2月6日（月）15：00～17：00

### 3 次第

#### (1) 開会

#### (2) 地域教育推進課長あいさつ

#### (3) 議事 15：05～16：55

#### ○令和4年度の事業実施状況及び今後の取組について

##### ア 前回の協議の論旨 15:05～15:15

##### (ア)「集中改革」の前提として

a 経緯 令和元年より効率性の高い業務への転換を図る目的で、業務を見直し、経費削減や民間委託（指定管理）も含め、集中的に改革を進めることが各課で行われた。

##### b 経過

令和2年度 他都道府県、政令市の調査

令和3年度 臨床心理士を採用しての検証

令和4年度 方向性の決定

令和5年度 業者選定

令和6年度 委託開始

##### c 議論の前提として

- ・サービス低下になっては、本末転倒である。
- ・業務の見直しは、常に行わなければならない。
- ・民間委託ありきの議論ではない。

##### (イ)「集中改革」の方向性について懇談（R4年3月）

##### a 直営 or 民間委託⇒公で行うメリットが大きい

- ・福祉行政サイドの施策との関連で、子ども・若者支援を全市的に進める
- ・誰でも利用できる（相談内容を問わない、属性を問わない、お金がかからない）。
- ・学齢期からの継続支援が可能である。
- ・医療機関と連携した支援が可能となる（治療と療養、リハビリ）。
- ・公としての信用がある。質的担保が図られる。（調査資料、アンケートを収集しやすい。）
- ・職員の身分が保障される（公務員として）。

##### b 今後必要なこと

- ・市長部局を始めとした関係機関と連携し、継続的な支援のあり方を考える。
- ・若者の現状や課題について調査し、統計をまとめ、分析をし、公表する。
- ・委託した方がより効率的で充実するものはないか業務の見直しを図る。

- ・ソーシャルワーカーの配置が必須
- ・好事例について広報していく。

(ウ) 検討や改善が必要なこと

a 広報活動

- ・周知にさらに力を入れる。
- ・相談しやすくするための手立て（イベント）を工夫する。

b 統計

- ・統計の取り方（項目）を見直す。
- ・数値から見えてきた傾向を分析し、対策を立て、改善に生かす。

c 業務の連携を図る

- ・3事業の有効性を探る
- ・「居場所」利用者の分析
- ・業務分担の見直し（調査統計の主担当）

d 保護者支援

- ・保護者支援の充実

イ 今年度の現状（進捗状況）と課題

(ア) 令和4年度利用状況（令和4年12月末現在）15:15～15:20（樋口）

参考資料1 統計資料

参考資料2 ミニ講座、支援事業資料

参考資料3 心身の状況、紹介した機関、明鏡高校フリー相談

(イ) 広報活動、若者支援（理解）の輪を広げる活動 15:20～15:25（貝沼）

a リーフレット、インフォメーションカード配布 資料1 配布計画、通信制高校等一覧

b 若者支援者養成講座（10月1、2日）資料2 要項、受講者数、アンケート集計

c イベント参加 資料3 イベント

- ・Colorfulmap トークイベント
- ・ギャンブル依存症基礎講座
- ・オレンジリボンキャンペーン
- ・こわれ者の祭典

(ウ) 統計方法 15:25～15:30（笠井）資料4

意見交換 15:30～15:45

○若者支援センターの今後のあり方について 15:45～16:00（笠井）資料5

持続可能な若者支援センターにするために（業務の精選・重点化、民間活力の活用）

意見交換 16:00～16:50

○その他

(4) 閉会 17:00